

1400はひとつだ!

交流 支部間 成功裡に終る!

日刊 動労千葉

79.2.26
No.44

国鉄動力車労働組合

千葉地方本部

千葉市要町二一九(動力車会館)
電話二五八〇九(公衆電話)七二〇七

われわれは、2.10歴史的臨大の成功をもって、真の動労運動の再生を期す即いへと決起した。

これに対し、動労内革マルとそれに追いつく一部反動分子は、何ら展望も説得力もなく、ただやみくもにデマとペテンをこぼし、千葉地本への「事実上の執行権停止」再登録攻撃をかけてきている。われわれの即う道はただひとつ。

われが二四〇〇組合員の不動の団結であり、動労大改革へのほとばしる情熱、正義の路線である。地本はオの回支部代・臨大の確認にひまを、地本内11支部の交流を実施してきた。各交流会でも「組織問題」「2.10臨大方針」「日常的職場闘争」などを中心にした活発な意見交換が行われ、地本内11支部の共同の即いへの歩みは、より強固に着実に前進した。

千葉軌 2月5日(銚子支部)

銚子

銚子支部では前段で職場集会ももたれ、千葉軌支部より支部長以下15名を迎え、明・非番の多くの組合員が参加し、互いに腹をゆるした多くの意見が交換された。

「俺は動労が好きだ。誤った方向へ変質させたくない。」

「支部全体で黙って闘えば必ず勝てる。自信をもって進もう。」

苦勞して築き上げてきた自分たちの職場を守り、本部の誤った指導を糾すために一人の脱落もなく、両支部一丸となって奮闘することを誓って成功裡に終えた。

勝浦 2月6日(佐倉支部)

佐倉

佐倉支部では支部長以下全執行部と参加組合員が、勝浦支部長はじめ13名の代表を迎え、ジェット闘争のハンドルを握って即い続けている当該支部の気迫をこめた活発な意見が交換された。

「全国大会で決めた三里塚・ジェット闘争をやらないで水本」

「しやうやしない本部こそ大会決定を守れ」といった。

「線を画す路線は誤りだ。俺たちは農民を裏切れない。」

「組織の強化のためにも『日常の即い』は重要だ。外京線においては、今、新たな運動保安闘争に入っている。」

館山 2月22日(木更津支部)

木更津

両支部長のあいさつの後、相互討論に入っていた。出された意見は、

「最近の動労の路線は変質したという意見が職場でも多く出される。中央の路線は労組といつものセントの感がある。」

「他労組の動きについても万全の構えをこころ。」

「全支部を連けて即いぬことが重要だ。」

「臨大方針は本気でスクリしている。待っていたものが遂に出たという感じだ。全組合員に徹底させていきたい。」

「などの意見が出され、友好的な中にも房総半島は俺たちの手で守るといふ強い

決意がうかがえた。

成田 2月23日(幕張支部)

幕張

日暮支部長はじめ14名の成田の仲間、白井幕張支部長の案内で広い構内を見学。乗務員支部と地上勤務者支部の特徴を生かして有意味な交流会をもち上げた。

「集いや枝葉闘争で体制を固めてきた。いつ攻撃がかけられようとも幕張支部の屋台骨はしっかりしている。」

「今日職場の先輩者の話を聞いて本当に確信を持った。その人は、毎日『日刊動労千葉』を自分か読み終ったら団方の仲間にも読んでほしい。今度は家で持ち帰って奥さんや子供にも読ませよう。討論してこのことだ。だんだん理解が深まってきた。と語られた。その熱意に頭が下がる思いがした。」

「三里塚・ジェットの拠点として『線を画す』は絶対に認められない。この意見が支部組合員のほととである。」

「今日の国鉄再建・合理化攻撃に対し、貨物支部の闘争を際際しくして勝ちぬけるか。」

「『貨物安定宣言』路線は、俺たちが築き上げてきた反台・東方闘争の伝統を裏切るものである。」

「私も『武蔵野操車場』に乗り入れているが、すさまじい合理化だ。なぜあんなものを認めたのか疑問だ。」

「第一次・第二次支部間交流は大きな成果をもたらしした。更に確信も高く組織破壊・分断攻撃を許さず、『臨大四つの柱』を全体的なものとし、全国の心ある仲間と共に大胆にこの正義の道を突き進もう。」

津田沼 2月23日(蘇我支部)

蘇我

貨物支部と電車支部の交流は当然にも『貨物安定宣言』の問題に集中した。

「今日の国鉄再建・合理化攻撃に対し、貨物支部の闘争を際際しくして勝ちぬけるか。」

今週の防犯担当

2.26	月	蘇我・館山
27	火	佐倉・勝浦
28	水	銚子・成田
3.1	木	新橋・津田沼
2	金	幕張・千葉
3	土	木更津・館山
4	日	佐倉・勝浦
5	月	銚子・成田

